

教職課程センター・地域学校教育センター

特集 センターに寄せる期待

学長メッセージ



学長 安井利一

明海大学では、1990年に国から教職課程の設置認可を受け、この間、延べ2000名近い学生が国語、英語や中国語の教育職員免許状を取得して東京都を始め、千葉県、埼玉県など関東近県で教員として活躍している者も多い。

こうした中、2016年度には、本学の教員養成課程の教育の更なる充実を図るため、教職に関する全学を統一する組織である教職課程センターを設置し、教員を目指す学生に対して幅広い支援を行っている。具体的には、本学講義棟2階にセンター執務室を設置し、教職を目指す学生が教職に関する参考文献等を閲覧したり、教員採用試験のための学習ができるよう環境整備をするとともに、常勤職員が毎日切れ目のないよう学生に対する相談業務などを実施している。

また、同年、教職課程センターとともに開設した地域学校教育センターにおいては、教職の学生や教員が中心となって、都立高校5校に対する日本語指導支援や英語教育支援、足立区の小・中学校における英語教育支援、浦安市の小学校の学習支援を精力的に行い、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」(2005年1月)の中で述べられている社会貢献機能、特に地域貢献をいかに発揮して高い評価を得ている。

今後とも、教職課程センターと地域学校教育センターが両輪となって、学生・教職員が本学のプレゼンスを高め、明海大学の発展に寄与していただくことを切に期待する。

教職課程センターニュース

1年次から教職課程履修を開始

教職基礎セミナーⅠ・Ⅱ(日本語・英語)を新たに設置し、1年次から教職に向けての準備を開始することができるようになりました。それぞれの専門科目(日本語・英語)の力を1年次から伸張り、教員としての素地を鍛える科目です。日本語学科32名、英米語学科26名がこの新科目を履修しています。また、2年生以上の教職課程履修者数は次の通りです。

2年 日本語 9名 英米語 21名 中国語 1名

3年 日本語 14名 英米語 13名

4年 日本語 12名 英米語 8名

科目等履修生 英米語 2名 中国語 2名

教職課程センターでは今後、採用試験合格を目指す学生支援を強化していきます。

教職履修者対象面接スタート

センター職員が2年・3年の教職履修者と直接コミュニケーションを図ることにより、目標の再設定、不安解消、採用試験に関する情報提供等を行います。1年生は7月、4年生は9月に行う予定です。



3・4年生対象教職特別講座(6限)



教職基礎セミナーⅠ 英語

足立区小中学校・英語支援本格始動

中学校支援

2017年度の足立区との連携事業のひとつとして、区内の5中学校が重点支援校に指定されました。各学校における支援テーマは次の通りです。

竹の塚中学校:

英語の学習量を増やす方策の研究

第五中学校・入谷南中学校:

小学校英語を踏まえたスタートカリキュラムの作成

千寿青葉中学校・第十中学校:

自分で考え、自分の言葉で伝える英語力の育成



千寿青葉中
授業風景

各校ごとに担当者が月に2度訪問することを基本とし、上記の支援テーマにそって区教育委員会指導主事と共に助言等を行っています。併せて足立区内全中学校35校における生徒意識調査の結果分析を依頼され、本学が研究機関として足立区を支援することになります。

また、昨年度高評価を得た、中学生と本学留学生との交流事業を継続して行うほか、すでにスタートしている「高校生対象の基礎学習支援」を中学校でも行って欲しいとの要望もあり、本学の地域貢献に寄せられる期待が大きいことがわかります。同時に、本学の教職希望の学生にとっては教育実習に加えて学校現場を体験する機会ともなり、この連携事業は足立区と本学双方にとって有益であるといえます。

今後は地元浦安市との連携事業も始まりますので、明海大学地域学校教育センターはさらに準備を整え、高等教育機関に期待される役割を果たしていかなければなりません。

前職中に千葉県で教員研修等を担当してきた中で知り合った優秀な先生方が、本学の卒業生であることを知りました。浦安南高校英語科の滝口圭太先生は今年度文部科学省主催の中央研修に参加し、来年度は指導教員として千葉県内の高校英語教員の研修を担当します。榎本満美子先生は、私の以前の勤務校において、講師としてオールイングリッシュ授業の洗礼を受け、本格的に教職の道を目指す決心をしました。現在は千葉市立草野中学校にご勤務です。このように次世代を担う教員を育てることが、教職課程センターに勤務する者全員の喜びです。

《編集担当 百瀬 》

小学校支援

小学校支援は、小中連携対象校(西新井小、西保木間小、舎人小、舎人第一小)、足立区小学校教育研究会外国語活動部顧問校長校(鹿浜五色桜小、栗原小)、校長会長校(皿沼小)の7校です。いずれも、小学校英語を活性化させる役割を担っている学校です。

足立区はADとSVという独特の制度を活用して小学校英語の充実を図っています。ADはアドバイザーの略です。3名のSVはスーパーバイザーの略で、AD経験者のなかから選ばれ、ADの指導的な役割をしています。どちらも、民間の方方で、教員経験はありません。朝区役所に出勤し、学校で4,5時間の授業後区役所に戻り、反省や準備をしています。20数名のADとSVが週4日小学校へ行って英語授業を担任とTTで行っています。水曜日には多忙な中で研修と授業準備をしています。日本語の通じる英語に堪能な方々の活用で足立の小学校英語はますます充実すると思います。



Center IMA

デジタル教科書講習会

足立区立中学校の多くには、すでにデジタル英語教科書が導入されており、支援を行う職員もその使用方法を熟知しなければなりません。同時に、教育実習を行う学生たちも、実習前に使用に慣れる必要があります。センターではデジタル教科書使用に対応したプロジェクタ及びタブレットを使って講習会を行いました。ICT活用は今後の教育現場においてますます重要視されることでしょう。成績などのデータ処理、進路指導等に関しても教員に求められる情報処理能力はますます高くなります。センターでは時代のニーズに応える教師を育成すべくハード、ソフトの両面を充実させていく予定です。



Mimiyori

6月5日、麻布十番にある旧岩崎邸、現国際文化会館にて、「グローバルズムとローカリズムの相克を超えて」と題したシンポジウムに出席しました。平田オリザ氏の基調講演では「身体的文化資本」という言葉が使われました。子供たちが育つ過程で様々な文化が自身の中に蓄積されることの重要性に気づかされました。教職を目指す学生諸君、この言葉を調べてみては？